



# 笠松の「モラルセンス」宝物編 No.14



## 笠松競馬出身 芦毛の怪物 オグリキャップ

●驚異の戦績 = 全32戦中22勝(3才~6才)  
 ☆5戦目で優勝してから破竹の14連勝達成



笠松競馬場正門横にあるオグリキャップの銅像

オグリキャップは昭和60年3月27日の深夜に生まれました。生まれた直後は自力で立ち上がることが出来ませんでした。右前足が大きく外側を向いていたからです。このことは競走馬にとって大きなハンディキャップです。そこで、無事に成長するようという願いをこめて、牧場長は幼名を「ハツラツ」と名付けました。

「ハツラツ」は生まれた頃はやせこけて、見栄えのしない子馬でしたが、雑草も構わずに食べるほど食欲が旺盛でした。そのため2才の秋頃には見劣りしない馬体に成長しました。その頃から前に他の馬がいと追い越そうとするほど、負けん気が強かったということです。

昭和62年5月19日に笠松競馬にデビューしました。登録馬名は「オグリキャップ」です。デビュー戦は2着でした。その後のレースでは2連勝しましたが、第4戦で再び2着になりました。

しかし、第5戦以降は破竹の8連勝を飾りました。

オグリキャップは笠松競馬で活躍を続けていましたが、「このまま笠松のオグリキャップで終わっていいのですか?」とか「馬の名誉のためには中央競馬に入れて走らせるべきです。」などの声がわき起こりました。そこで馬主は決心し、オグリキャップを中央競馬に移籍させました。

4才で中央競馬に移籍したあとも、オグリキャップは6連勝という快進撃を続けました。平成元年10月の天皇賞レースでは惜しくもタマモクロスに敗れましたが、12月の有馬記念レースでは優勝し、タマモクロスに雪辱すると同時に、現役最強馬に登り詰めました。

4才、5才と華々しい活躍をしたオグリキャップでしたが、6才になると宝塚記念では2位、秋の天皇賞では6位、ジャパンカップでは闘志をみせることなく11位に終わりました。「オグリキャップの時代は終わった。」「もう引退させたらどうか。」などの周囲の声にも負けることなく、有馬記念に挑みました。明らかに全盛時代の勢いはないのではと思われるオグリキャップでしたが、人気は16頭中4番でした。鞍上には手綱さばきの天才といわれている武豊騎手が復帰していました。レースは予想に反してスローペースでしたが、オグリキャップは直線になると猛然とスパートしました。そしてメジロライアの追い込みをしのいで、奇跡の優勝を果たしました。

その後引退したオグリキャップは、種牡馬として余生を北海道の牧場で送りました。しかし、平成22年7月3日に転倒し足を複雑骨折したため、治療のほどこしようがなく安楽死の処置がされました。笠松競馬場では7月19日にお別れの式を行い、在りし日のオグリキャップをしのびました。



オグリキャップのたてがみ展示記念碑

笠松競馬場の正門横にはオグリキャップの偉業を讃え、銅像が設置されました。オグリキャップの「たてがみ」も展示されています。是非、オグリキャップに会いに競馬場を訪ねてください。